

令和6・7年度 川口市教育委員会委嘱「学校間連携教育」に関する研究

# これまでの研究授業と指導内容





# 舟戸小学校 国語科学習指導案

授業学級	第 3 学年 1 組
単元名	登場人物のへんかに気をつけて読み、すきな場面について話し合おう
授業者	八巻 裕子



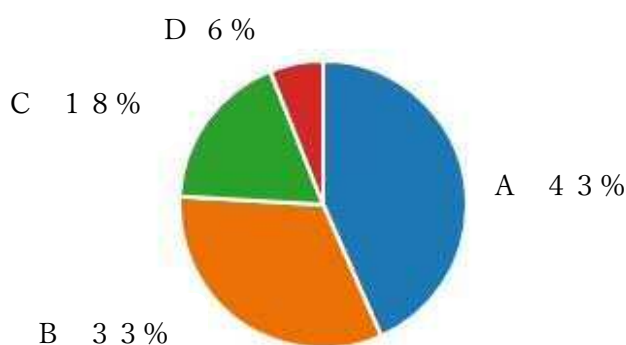
# 第3学年1組国語科学習指導案

日時 令和7年9月29日(月)第5校時  
 在籍児童数 28名  
 授業場所 3年1組教室  
 授業者 八巻 裕子

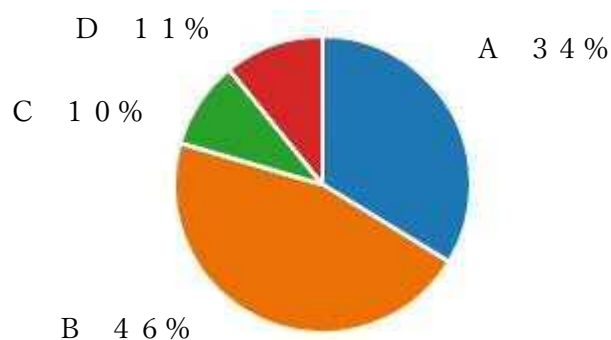
1 単元名・教材名 登場人物のへんかに気をつけて読み、すきな場面について話し合おう  
 「まいごのかぎ」

2 単元について  
 (1) 児童観

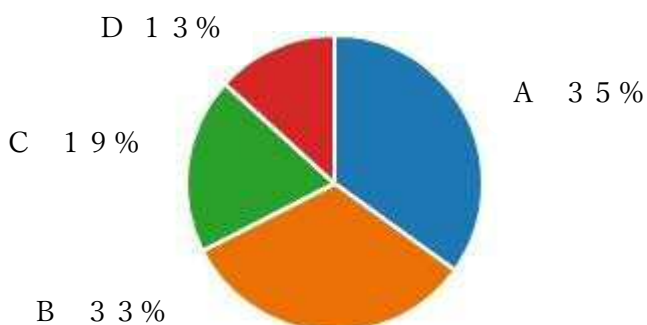
話し合いは好きですか？



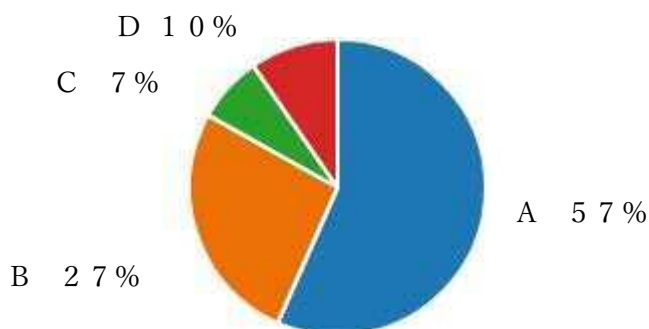
話し合いの時、自分の考えと同じ所と違う所を見つけていますか？



振り返りを見返していますか？



物語を読むことが好きですか？



A 当てはまる B どちらかといえば当てはまる C どちらかといえば当てはまらない D 当てはまらない

アンケートの結果、話し合いが好きかどうかは76%が肯定的に捉えている。また、話し合いの時に、自分の考えを相手の意見と比べて同じ所や違う所を見つけている児童は、80%とかなり多くみられる。しかし、自分の考えをもつことに対して難しいと考えている児童が一定数おり、自分の考えをもったり、意見を比べて聞いたりすることに課題があると考えられる。さらに、明確な解答がある場合の学習には関心が高く参加率も高いが、自分の考えを話したり書いたりする時、自信がない児童が多く、発言する児童が限られている。

## (2) 教材観

本単元は、国語科学習指導要領中学年「思考力、判断力、表現力等」の指導事項のうち、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる」を目標に指導する。言語活動として「物語を読んで、好きな場面について話し合う」という活動を位置づけた。

単元を通じて、登場人物の変化に目を向けて読みを深めることに重点を置いた学習を目指している。また、本文の比喩表現や擬人法など多彩な表現を意識し、児童の語感を豊かにすることを意識させたい。

## (3) 指導観

振り返りの視点を意識させ、毎時間自分の言葉で振り返りを書く習慣をつけることで、学習を自分事として捉えることを期待する。また振り返りを見返すことに対して32%の児童が習慣になっていない。振り返りを次時の学習に生かすことで主体的に学習を行え、学習を自分から振り返りができるようになると考えられる。

何のために話し合うのか提示することで、話合いの目的を明確にする。また話合いの視点をもって少人数で話合いを行うことで、自信をもって自分の考えを発信できるようにする。さらに、授業で学んだことを生活の中の読書に生かし、本を読むことを楽しんでほしい。

## 3 研究主題とのかかわり

本校の研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進」

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成～

〈主体性の手立て①〉振り返りシートの活用

- ・毎時間の振り返りを一枚の振り返りシートにまとめることで、前時の学習を踏まえて本時の学習につなげる。

〈主体性の手立て②〉話合いの視点の明確化

- ・何のために話し合うか、話合いの際に具体的にどんな言葉を使えばよいか一目で分かるように、言葉貯金表を掲示し、全体で確認する。

〈多様性の手立て①〉意見の表し方

- ・ハンドサイン、マグネットの名前を使用することで、自分の意見を明確にする。
- ・多くの児童が意見を表せるように、学習活動を多様化させる。

## 4 単元の目標

(1) 様子や行動、気持ちや生活を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕(1)オ)

(2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ)

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

(学びに向かう力、人間性等)

## 5 本単元における言語活動

詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことを伝え合ったりする活動（関連：言語活動例イ）

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちや生活を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。((1)オ)	①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	①進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語を読んで、好きな場面について話し合おうとしている。

7 指導と評価の計画 (全6時間)

時	○主な学習活動 「主体性・多様性」の視点に基づく 学習活動 (主 多)	○学習内容	○指導上の留意点・評価
1	○教科書 p71 を見て、物語の内容を想像し、範読を聞き、物語についての感想を「四方山タイム」で交流する。  ○単元全体の学習計画を立てる。主	○単元の学習課題の立て方	○教科書 p71 の単元扉を活用し、題名について想像したり、内容について期待感をもたせたりしながら学習に入る。  ○「問いをもと」や「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。
2 ・ 3 ・ 4	○場所や出来事を確かめながら、場面分けをして、それぞれの場面の出来事と「りいこ」の気持ちをノートに書き、話し合う。多  ○物語の最初と最後で「りいこ」の考え方にどのような変化があったか考える。	○場面の分け方 ○「りいこ」の気持ちの変化と場面の移り変わりの読み取り方 ○叙述を基にした読み方	○場所が分かる言葉や出来事の様子が分かる言葉に着目させるために、言葉を例示する。  【知識・技能】 発言・記述 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語彙の量を増やし、語彙を豊かにしている。  ○「りいこ」の言動に着目し、不思議な出来事に対する気持ちを場面ごとに確認する。  【思考・判断・表現】 発言・記述 ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。  ○「りいこ」の気持ちの変化をおおまかにおさえたいうえで、気持ちの変化の理由を考えるという手順を踏む。

5	<p>○物語の好きな場面とその理由を決め、自分言葉で表す。</p> <p>○意欲的に多くの意見を確認できるように、タブレットに入力する。【主】</p>	<p>○好きな場面とその理由の決め方</p>	<p>○第2次の学習やノートを振り返り、「りいこ」の変化との関わりを考えながら、タブレットにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p><u>発言・記述</u></p> <p>・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。</p> </div>
⑥	<p>○好きな場面を友達と伝え合い、自分との共通点や相違点を伝え合う。【多】</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>	<p>○交流の視点</p> <p>○自分の思いや考えの伝え合い方</p>	<p>○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けたい力を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【主体的に取り組む態度】</b></p> <p><u>観察・発言</u></p> <p>・進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語を読んで、好きな場面について話し合おうとしている。</p> </div>

## 8 本時について（6/6 時間目）

### （1）本時の目標

言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉

### （2）評価規準

進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語を読んで、好きな場面について話し合おうとしている。

**【主体的に学習に取り組む態度】**

(3) 展開

学習活動 「主体性・多様性」の視点に基づく学習活動 (主 多)	○学習内容	○指導上の留意点 ◇評価 ★本研究の視点を重視した指導	時間
1 前時の学習内容を振り返り、本時のめあてを確認する。主		○振り返りシートを活用して、前時の学習の内容を確認させる。 ★振り返りシートの活用：毎時間の振り返りを一枚の振り返りシートにまとめることで、前時の学習を踏まえて本時の学習につなげる。	5
④ 友だちとつたえ合い、考えの同じところやちがうところについて、話し合おう。			
2 話し合いの目的、自分の考えと比べるときの視点を確認する。	○交流の仕方	○考えの同じところやちがうところについて明確にするために、話し合いの前に全体で視点を確認する。 ★話し合いの視点の明確化：何のための話し合いかを明確にし、自分と友達の意見を比べるときの視点として、①選んだ場面②言葉③理由を提示して、同じところ、違うところを理解できるようにする。	5
3 友達の考えを読む。	○考えの確認	○事前に自分の考えをタブレットに入力してオクリンクプラスに送っておく。	3
4 同じ場面を選んだグループで班になり、考えを伝え合う。多	○同グループでの考えの共有	○聞き方の型を提示することで活発な話し合いを促す。 ○考えを比べるときの視点を基に話し合いができるように、声かけをする。 ○相手の話をたくさん聞きたくなるように、タブレットには注目した本文の言葉だけを入力する。  ◇【主体的に学習に取り組む態度】 発表の観察 進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語を読んで、好きな場面について話し合おうとしている児童をBとする。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 言葉貯金表を掲示し、話し合いの手助けとする。	10

<p>5 全体で考えを伝え合 い、自分の考えと比べ 合う。多</p>	<p>○全体での考えの共有</p>	<p>★意見の表し方：ハンドサイン、マグネットの 名前を使用することで、自分の意見を明確に して、多くの児童が意見を表せるように、意 見の表し方を多様化させる。</p>	<p>1 4</p>
<p>&lt;期待される児童の反応&gt; 自分と同じ場面を選んでいただけ、○○さんは 本文の「立ちすくんだ」と「はっと気づいた」に 注目して、りいこの変化に気付いている所が僕と 違いました。</p>			
<p>6 まとめ</p>	<p>㊦ 友達と話し合うことで、それぞれの感じ方を知ることができる。</p>		<p>3</p>
<p>7 ふりかえり</p>		<p>○本時の学習を振り返るとともに、読書をす る際に生かすことができるように意見を 紹介する。</p>	<p>5</p>
<p>&lt;期待される児童の振り返り&gt; 友達と話し合いをすることで、今まで気付かなか った考えがありました。同じ場面 を選んでいても、自分とはちがう見方で物語を 読んでいることに気付きました。ちがう 物語を読むときも、登場人物の気持ちの変 化に注目して読んでみたいです。</p>			

9 板書計画

<p>㊤</p>	<p>㊦ 友達と話し合うことで、 それぞれの感じ方を 知ることができる。</p>	<p>魚の開きの場面</p>	<p>ベンチの場面</p>	<p>好きな所 さくらの木の場面</p>	<p>③ 理由 ② 言葉 ① 場面</p>	<p>し点 くらべる</p>	<p>九月二十九日 まいごのかぎ さいとう りん ㊦ 友だちとつたえ合い、考 えの同じところやち がうところについて、話 し合おう。</p>
----------	------------------------------------------------------	----------------	---------------	--------------------------	-------------------------------	--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

## 第2回 授業研究会「国語科(3学年)」

### 1 授業者より

△タブレットを使うと話し合いに集中できない

△自信が持てなくて意見が言えない

→ばんしょを色分けする

△決められた人しか発表できない

→教員が班に入りファシリした

子供の興味を引く単元を選んだ。今日は自分たちで話していた。話し合いの得意な児童が苦手な子が話せるために考えることができた。

### 2 質疑

- ・タブレットを使うと話し合いに集中できなかった。  
→端末を班に一台でみんなの意見を交換した。動かしたり操作したりで上手くいかなかった。
- ・今回の授業の評価は A進んで話し合おうとしている。B話し合っている。  
教員による見取りだけの評価になってしまうので、評価についても話し合いたい。
- ・技能や表現も評価規準に入れてもよいのではないか。  
→国語は1時間だけで見取るものではないので、前後の時間も含めて評価していきたい。
- ・第一次の四方山タイムは具体的にどのようなことをして、どんな話があったのか  
→鍵はどこから来たのか 鍵の現れ方が難しくなっている ウサギは何のためにできてきたのか

### 3 グループ協議

- A 主体性 貯金箱の活用と必要性を感じること 共感→多様性の理解  
多様性 話し合う意味を考えて設定する
- B 主体性 貯金箱共感を生む言葉も入れる共感の語彙力アップ。グループごとに貯金箱があると活用しやすい。  
多様性 マグネットのハードルの低さがよい。話すきっかけになっていた。  
マグネット見にくいので、見やすいようにしたい
- C 主体性 話しを聞きたいようにする工夫がほしい。相槌など  
多様性 興味をたくさんの子に持たせられる工夫がほしい。
- D 主体性 子供にとってわかりやすい授業空間。子供が活動しやすい。  
多様性 言葉貯金やジグソー法で活動しやすい。多様性で交流する場合はタブレットの活用があるとよい。話し合いのルーブリックやマトリックスがあるとよい。
- E 主体性 同じ考えでは話は盛り上がるが、違うところを探すのは難しい。  
話したくなるような授業の設定が必要。

#### 4 指導講評

佐藤彰典指導主事より

授業開始前から子供のやる気を出させ、集中力を高めることをしている。

授業始まる前から教室にいるようにしておくとうい。

音読をする時には目的をしっかりと設定する。

言葉貯金について、言語環境を整えていく。

デジタルとアナログのベストミックスを目指す。

→子供が主体的になるようにやりやすいものを目指す。

国語について

教えることを「はっきり、しぼりこむ」を徹底する。

「迷子の鍵」について

「どこが一番面白かった？」ではなく「どこが一番気持ち悪かった？」の方が盛り上がる？

→主人公の気持ちは最後までも上がっていない。

迷子の鍵の重点目標

C 読むこと 思考の流れ

A、I 構造の内容の把握

ウ、エ 精査解釈 ←今回の目標はこれ。書いてあることを土台にして自分の考えを形成し共有。

オ 考えの形成

カ 共有

この単元で教えなければいけないことが変わっていることがある。同じ物語でも。(大造じいさん)

今回は精査解釈して、自分が考えたことを話せばよい。

重点目標を変えてしまうと、年間で指導すべきことをもらしてしまうこともある。

年間でア～オまで順番に指導、習得していくべき。

本時について

例えば「友達と伝えあい、考えの同じところや違うところについて話し合おう。」をめあてにする。

まとめ「好きな場面は同じだが～」

振り返り「【全然違った】ところがあったら教えてね」

→クラスに数人いればよい。カの共有の時に輝いてもらおう。

にしてもよかった。

主体的に学習に取り組む力について

粘り強い

つまり指導計画の1時間目の評価にはなじまない。

「重点目標にある力」をつけようとしているところで評価する。

# 舟戸小学校 算数科学習指導案

授業学級	第 5 学年 1 組
単元名	小数の倍
授業者	永田 健太



## 第5学年1組 算数科学習指導案

日 時 令和7年6月25日(水) 第5校時  
場 所 5年1組教室  
在籍児童数 27名  
指 導 者 永田 健太

### 1 単元名 「小数の倍」

### 2 単元について

学習に関するアンケート結果は以下の通りである。

	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	あまり 当てはまらない	当てはまらない
①算数は好きですか。	40%	32%	12%	16%
②話し合いは好きですか。	32%	40%	20%	8%
③自分の考えを伝えるのは好きですか。	28%	32%	32%	8%
④話し合いの場で、自分の考えを持っていますか。	40%	52%	8%	0%
⑤話し合いの場で、自分の考えと同じところやちがうところを見つけていますか。	32%	44%	20%	4%
⑥話し合いの場で、友達は自分の考えを理解しようとしてくれていますか。	56%	36%	8%	0%
⑦色々な立場の人の話を聞くことはおもしろいですか。	52%	44%	0%	4%
⑧人の話を課題解決に生かしていますか。	28%	36%	28%	8%
⑨毎回の授業で学習の見通しは持っていますか。	12%	48%	32%	8%
⑩毎回の授業でこれまでのノートを見返していますか。	24%	36%	24%	16%
⑪前回のふりかえりを見返していますか。	12%	16%	36%	36%

アンケート結果より、本学級の児童は算数が好きな児童が7割いることが分かる。学習においては②～⑧では、自分の考えを持ったり、友達との話し合いを通して、友達の考えを聞いたり自分の考えとを比較することはできているが、自分の考えを伝えることには苦手意識を感じている児童が多いことが分

かる。普段の授業でも挙手をする児童は決して多いとは言えず、「自信がない」、「間違えたら恥ずかしい」と多くの児童が口にしている。また⑧より話し合いから課題解決に繋がられていない児童が多いことも分かった。そこで、児童が安心して発言できることが重要であると考え。そのために自分の考えをより分かりやすく説明する方法を友達と練り上げる活動を取り入れていく。更に、⑨より児童の学習への見通しがあまりできていないことも分かった。その原因の一つとして、⑩よりふりかえりの活用に大きな課題があると考えられる。そこで、振り返りシートを作成し、前時の振り返りを確認する習慣づくりをしていくことで、児童が見通しを持って学習に臨めるようにしていきたい。

## (2) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領解説第5学年の内容A「数と計算」に基づき設定されたものである。その内容は次のように示されている。

(3) 小数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。

(イ) 小数の乗法及び除法の計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。

(ウ) 小数の乗法及び除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察すること。

第2学年では、「○のいくつ分」のことを「○の何倍」ということ、何倍にあたる大きさを求めるときも乗法の式になることを学習している。

第3学年から第6学年にかけて、「倍」の学年を特設単元として扱う。全ての学年において、割合の意味の理解を確実にするため、割合の3用法をまとめて学習していく。割合の3用法を以下に示す。

### 割合の3用法

第3学年「倍の計算」では基準量の意味を理解しやすくするために、身近なもの（「あた」「つか」など）を基準量として、机や椅子を測定する活動を取り入れている。それらの数量の関係に着目しながら3用法の計算の仕方を理解していく。

第4学年の「倍の見方」では、4上P.113の数直線の図の基準量の部分に着目し「基準量を1とみる」という倍の見方を知り、そのあと、3用法それぞれの見方を説明していく。さらに、ある2量の関係と別の2量との関係を、倍を使って比べる方法（倍を表す数が整数になる、簡単な場合についての割合）を考える。また、第13単元「小数のかけ算とわり算」では、整数倍の意味を基にして小数倍の意味を統合的にとらえている。

第5学年の本単元では、数量Aと数量Bの関係について、どちらを基準量にするかによって倍を表す数が変わることを学習する。また、基準量、比較量、倍を表す数が小数の場合の小数倍の意味を考え、整数倍と小数倍の意味を統合的にとらえる。さらに、倍を表す数が小数の場合も倍を使って比較できること（簡単な場合についての割合）をおさえる。

第6が燻煙「分数の倍」では、基準量、比較量、倍を表す数が分数の場合について分数倍の意味を考察し、整数倍、小数倍、分数倍の意味を統合的にとらえていく。

本単元では、まず2種類のリボンの長さについて、基準量を決めて2量の関係を調べていく。赤と青のリボンを比較する際、基準量を赤のリボンにしたり青のリボンにしたりすることで、同じ2つの数量の関係でも、基準量をどちらにするかによって、倍を表す数が変わることを理解させる。その際、第4単元「小数のかけ算」で学習した、小数をかけることの意味を想起させ、数直線の図を用いながら「4mを1とみたとき、10mは2.5にあたる長さ」「10mを1とみたとき、4mは0.4にあたる長さ」という説明をさせていく。その後、倍を表す数が小数の場合の3用法を学習し、整数倍と小数倍の意味を統合的にとらえていく。

第4学年と同じように「簡単な場合についての割合」を学習する。これまで学んできた「基準量の何倍」という見方を用いて、ある2つの数量の関係と、別の2つの数量の関係を比べていく。基準量が違うときには、基準量を1とみて、倍を使って比べられることを考察させていく。

### (3) 指導観

単元プロローグでは、本単元を見通して、ドッジボールと卓球のボールを差と倍で比べている。こうした考え「差で比べるときは大きい方から小さい方をひいた」と、しほの考え「倍で比べるときは卓球のボールの直径を1とみて…」から、「大きい方を1とみることはできるだろうか」という問いを引き出したい。

第1時では、2つの数量の関係に着目し、基準量を変えると倍を表す数が変わることを図を用いながら説明する。倍の関係を表す際に、数直線の図にテープを示すのはここが最後である。テープ図の上部の1本の直線に着目させ、その直線で青と赤の2つのリボンの長さが示せることを伝える。テープ図の下の倍の直線では、整数と整数の間に目盛りを入れて、倍は小数で表してもよいことを確認する。まず、赤のリボンを基準量にした後、次に青のリボンを基準量として2量の関係を説明していく。それぞれのリボンを基にしたときの共通点や相違点が明確になるよう、数直線の図を見やすく盾に揃えて板書する。そのうえで、赤を基にすると $4 \times \square = 10$ だが、青を基にすると $10 \times \square = 4$ だから $\square = 4 \div 10$ 、という説明をさせたい。

第2時～4時は、数値が小数の場合の第1用法から第3用法を扱う。第4学年の整数倍と同じように数直線の図を効果的に用いて第2用法を基に乘法で立式して、それぞれの式の意味を言葉で説明する活動をていねいに扱うことで、倍で比べることのよさを感じさせたい。

第4時の本時のまとめでは、基準量の求め方を考える過程で働かせた「倍を表す数が小数の場合も、基準量を求めるには□を用いて乗法の式に表すと考えやすい」という数学的な見方・考え方を価値づけるようにする。

本時は、小数倍における基準量の求め方について考えていく。本時では前時まで問題文にあった「基にする」という記述がない。そのため、問題文から場面を整理し、数直線に表す過程において、生まれたときの体重が基準量（1とみる）であることとらえることを大切にしたい。また、基準量を未知数の□として表し、乗法の式に表すことを価値づけた後に、□を求める除法の式に変形する展開を大事にした。また、□を用いて乗法の式に一度表すことで、基準量を求める除法の式が立式しやすいというよさを振り返る場面を位置づけ、問題解決において順思考から逆志向へと道筋立てて考える力を育てたい。

## 3 研究主題とのかかわり

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進」

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

### 〈手立て①〉 主体性

- ・振り返りシートを活用する。毎時間のキーワードと視点を明確にした振り返りを記入させる。それを毎時間確認していくことで、前時と本時の内容を繋げ、自ら課題を見つけ、見通しを持って学習に臨めるようにする。

※振り返りの視点：【①わかったこと、②できたこと、③わからなかったこと、④疑問に思ったこと、⑤友達の考えですてきだったこと、⑥今日の自分からレベルアップするために頑張ること】

### 〈手立て②〉 多様性

- ・自分の考えをより分かりやすく説明する方法を友達と練り上げる活動を行う。自力解決による自分の考えに、友達の様々な視点を基に加筆修正していく活動を通して、他者との違いを受け入れ、協働し、よりよいものを作り上げていこうとする態度を育てていく。

## 4 単元の目標

児童に身に付けさせたい力を3つの資質・能力ごとに記述する。

### (1) 知識及び技能の目標

基準量や比較量が小数の場合の倍の意味や簡単な割合による比較について理解し、説明している。

### (2) 思考力、判断力、表現力等の目標

2量の関係に着目し、基準量や比較量が小数の場合の倍の意味や割合による比較について図や式などを用いて考え表現している。

### (3) 学び向かう力、人間性等の目標

基準量や比較量が小数の場合の倍の意味について、整数の意味と統合的にとらえたり、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学の良さに気づき学習したことを今後の生活や学習に生かそうとしたりしている。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基準量や比較量が小数の場合の意味や簡単な割合による比較について理解し、説明できる。	2量の関係に着目し、基準量や比較量が小数の場合の倍の意味や簡単な割合による比較について図や式などを用いて考え表現している。	基準量や比較量が小数の場合の倍の意味について、整数倍の意味と統合的にとらえたり、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

6 指導と評価の計画（5時間扱い）＜単元指導の展開構想を明確に示す＞

時 (本時)	学習活動	評価規準と評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
第1次	・2量の関係について、基準量を変えると倍を表す数が変わることをおさえ、倍の意味の理解を深める（1）	・2量の関係について、基準量を変えると倍を表す数が変わること理解している。 [ノート分析]	・基準量に着目して、2量の関係を倍で表すことを考え、図を用いて説明している。 [観察、ノート分析]	
第2次	・比較量、基準量が小数の場合でも、倍を求めるときは除法を用いればよいことを、図や式を用いて考え、説明することができる。（1）	・比較量、基準量が小数の場合でも、倍を求めるときは除法を用いればよいことを理解し、倍を求めることができる。 [ノート分析]	・2量の関係に着目して、比較量、基準量が小数の場合の倍の求め方を図や式を用いて考え、説明している。 [観察・ノート分析]	
第3次	・小数倍の意味について、図や式を用いて考え説明し、倍の意味の理解を深める。（1）	・整数の倍と小数の倍の意味を統合的に理解している。 [ノート分析]	・2量の関係に着目して、小数の倍の意味について図や式を用いて考え、説明している。 [観察・ノート分析]	
第4次 (本時)	・倍を表す数が小数の場合も基準量を求めるときは□を用いて乗法の式に表して考えればよいことを、図や式を用いて説明することができる。（1）	・倍を表す数が小数の場合も、未知数を□として数量の関係を乗法の式として表し基準量の求めることができる。 [観察、ノート分析]	・既習を基にして、倍を表す数が、小数の場合の基準量を求め方を考え、説明している。 [観察、ノート分析]	
第5次	・倍を表す数が小数の場合も倍を使った比較の仕方を考え、説明することができる。（1）		◎既習を基にして、割合による比較の仕方を考え、説明している。 [観察、ノート分析]	・割合で比べる方法を日常生活の場面で活用しようとしている。 [観察、ノート分析]

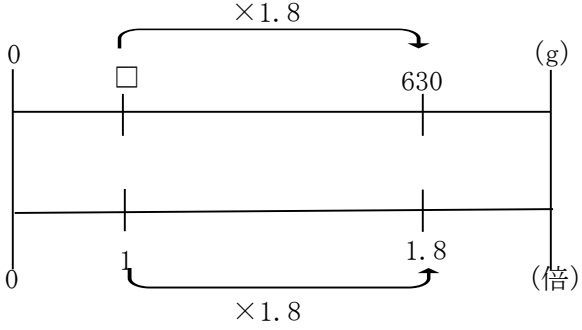
7 本時の学習指導

(1) 本時の目標

倍を表す数が小数の場合も基準量を求めるときは□を用いて乗法の式に表して考えればよいことを、図や式を用いて説明することができる。

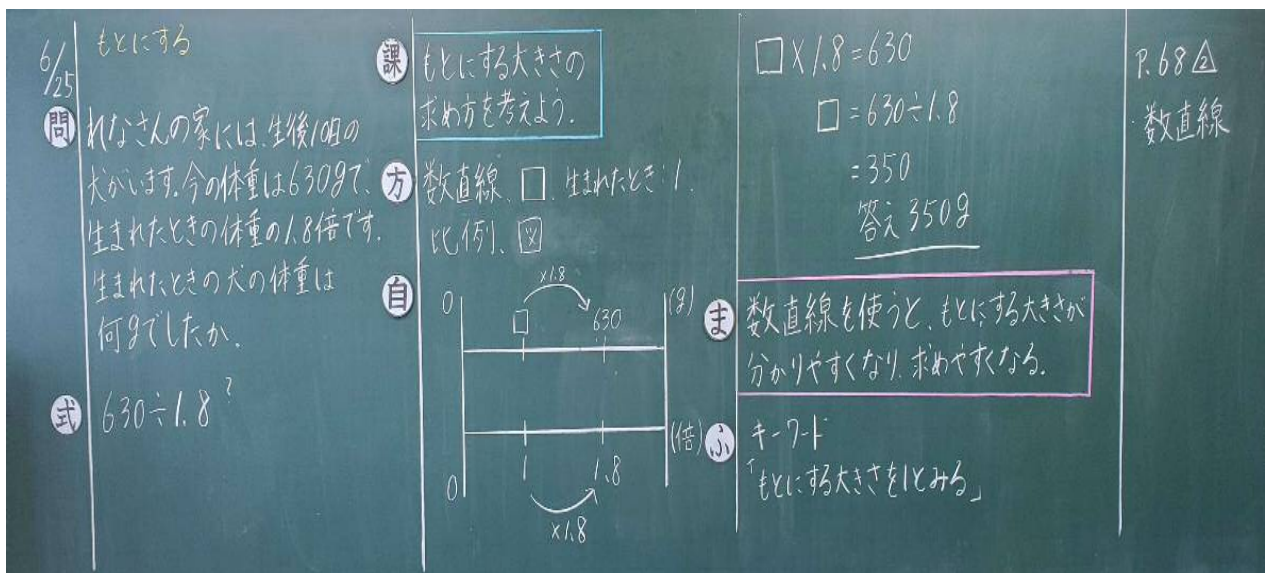
(2) 展開

学習活動	教師の発問 (◎) 予想される児童の反応	評価基準 (◇) 支援 (⇒) 指導上の留意点 (○) 本研究の視点を重視した指導 (★)	時間
1 前時の振り返りとキーワードを確認する。	◎前回はどのような学習を行いましたか。 ・3本のテープのそれぞれ倍された数を求めました。 ・もとにする数を1と見て数直線を書いたら解けました。	★振り返りシートを用い、前時の内容とキーワードを確認し、見通しを持つ。	3
2 問題を把握し、課題を見出す。	れなさんの家には、生後10日の犬がいます。今の体重は630gで、生まれたときの体重の1.8倍です。 生まれたときの犬の体重は何gでしたか。		1
3 これまでとちがいを確認し、見通しを持つ。	◎前回までとちがうところはどこでしょう。 ・もとにするという言葉がありません。 ・今までは倍にした数を求めてきたけど、今日は生まれたときの体重を求めます。 ・もとにする数を求める問題です。	○問題文を配布し、ノートに貼らせる。  ○「もとにする」という言葉が出てこないことを確実に抑える。 ★振り返りシートを用い、前時のキーワードがないことを確認し、本時の課題を自ら考えられるようにする。	2
4 式を立てる	・ $630 \div 1.8$ かな。	○児童によってはすぐに立式できてしまう児童もいるため、その場合はあえて先に式を立てる。 ○式に対して「なぜ？」と根拠を問いかけ、児童に困り感と求め方を考える必要性を与える。	1
5 課題をつかむ。	もとにする大きさの求め方を考えよう。	○学習の課題を確認し、学習の見通しをもたせる。	2

<p>6 問題解決への見通しをもつ。</p> <p>7 自力解決をする。</p>	<p>◎これまで学習した知識を使って問題を解決する方法を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵 ・ 数直線 ・ 比例 ・ □</li> <li>・ 生まれた時の体重を1にする</li> </ul> <p>◎生まれた時の体重を求めましょう。</p> <p>◎3分間は自分で考えましょう。3分経ったら友達と相談してもいいですよ。</p>	<p>○問題が解けることではなく、なぜわり算なのか、どうすれば説明がつくのか伝えることができることが大切だと伝える。</p> <p>○「1にあたる」ものは何かに着目させ、生まれた時の体重を基準にさせる。</p> <p>◇</p> <p>A : Bに加えて、図などを関連付けながら論理的に説明している。</p> <p>B : 既習を基にして、倍を表す数が小数の場合の基準量の求め方を考え、説明している。</p> <p>C : 倍を表す数が小数の場合の基準量の求め方を考えられない。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b></p> <p>努力を要する（C）と判断した児童への具体的な手立て ⇒自分の考えを持てるよう既習事項を確認したり、児童の間に入って助言したりする。</p>	<p>2</p> <p>10</p>
<div style="text-align: center;">  <p>式 <math>\square \times 1.8 = 630</math>  <math>\square = 630 \div 1.8</math>  <math>= 350</math>          答え 350g</p> </div>		<p>努力を要する（C）と判断した児童への具体的な手立て ⇒自分の考えを持てるよう既習事項を確認したり、児童の間に入って助言したりする。</p>	
<p>8 自分の考えを共有し、より分かりやすく説明する方法を検討し、全体に発表する。</p>	<p>◎この後自分の考えを発表してもらいます。自分の考えを友達に伝えながら、より分かりやすく説明する方法を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生まれたときの体重□gを1と考えて数直線を書きました。</li> </ul>	<p>★友達と自由に交流し、どうすればお互いにより分かりやすく説明できるか助言し合う。</p> <p>○今回は求め方を説明することに重きを置く。そこで間違えた考えを共有することを防ぐため、答えが350gになることを予め</p>	<p>12</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 体重が1.8倍に増えているので、<math>\square \times 1.8 = 630</math>。</li> <li>• 数直線を見ると1が1.8倍されているから、<math>\square</math>から630も1.8倍されていることが分かります。</li> <li>• <math>\square</math>を求めるためにはわり算にします。<math>\square = 630 \div 1.8 = 350</math></li> </ul> <p style="text-align: center;">答え 350g</p>	<p>確認しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のノートと友達のノートを比較させる。</li> <li>○児童に説明する自信がついたか確認し、堂々と発表できるようにする。</li> <li>○発表した児童の説明を別の児童にさせ、多くの児童が説明できるようにする。</li> </ul>	
<p>9 本時のまとめを行う。</p>	<p>数直線を使って考えると、もとの大きさが分かりやすくなり、説明しやすくなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題と児童の自力解決に正対したまとめが書けるようにする。</li> </ul>	<p>3</p>
<p>10 本時のふりかえりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎今日のふりかえりを書きましょう。今日のキーワードは何だと思いますか。</li> <li>• もとにする大きさを1とします。</li> <li>• 数直線です。</li> </ul>	<p>★本時のキーワードを見出し、視点に沿った振り返りを書くようにする。</p>	<p>5</p>
<p>11 適用問題に取り組む。</p>	<p>◎P.68の2の問題に取り組みましょう。今日はやったことをできるようにするために必ず数直線を書きましょう。終わった人はノートを持って来てください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○終わった児童は他の児童に教えに行かせる。</li> </ul>	<p>4</p>

8 板書計画



## 第1回 授業研究会「算数科(5学年)」

### 1 授業者より

#### 学年より

#### 経過報告

- ・自ら課題に戻ってやっていく提案
- ・説明力がキーワードであった。
- ・5年4組
- ・振り返りのキーワードや自分の言葉から課題を引き出すなどを行った。
- ・不必要なものを基に問題に取り組むことが多かった。
- ・子どものつぶやきから課題を立てる。見通しの部分を補助発問などで補う。
- ・フェーズを分けることによってよりよい説明をしたいという
- ・誰が聞いてもさらに分かりやすくなるように多角的に説明できるようになった

#### 課題(改善ポイント)

- ・指導者側の基準を持つ。
- ・自信を持って発表してほしい。

#### 改善

- ・自分の考えを説明するときに、説明を付けてできるように
- ・自力解決に正対してまとめがかけるように

#### 授業者

#### 研究の二つの手立て

- ・主体性
- ・多様性
- ・手立てを他のクラスでもできるようにしたい。自分の考えを話したり、人前に立つことが苦手。聞くことはよくできている。
- ・考えは持っているが、自信がないので、安心して自分の考えをは話せるようにする。
- ・子どもたち同士で修正し、安心して話せるようにしたい。
- ・振り返りの価値づけができていないので、学習に見通しを持って行う。
- ・毎時間の振り返りをみてキーワードから本時へつなげていきたい。
- ・目に見えた成果はないが、長期的にやっていけば、3月にはみんな前に出てきてくれるのではないかな。

### 2 グループ協議

#### ① 主体性

- ・キーワードを使っていたのでつながっていた。
- ・どうして、知りたいという気持ちになれた子がいた。
- ・大事なところだけ抑えられる、展開しやすいのかな。
- ・まとめを振り返りにうつしてしまう。
- ・書き方、どうやって書くか低位の子も書きやすい。

#### ② 多様性

- ・様々な人と検討することができていた。
- ・説明だけして終わっていたところもあった。
- ・教えてもらっているだけでよいのか。
- ・自力解決、理由が説明できなかった。なぜそうなるのかができたらよかった。

### 3 指導講評

#### 櫻田指導主事より

- ・学校は先生があつてのものであり、先生から先生へ継続されていく。
- ・その子たちに会わせて指導していきたい。
- ・学力向上は授業をする目的である。必要な資質が身につく。
- ・舟戸小学校のは、知識・技能はものすごい学校である。思考・判断・表現はまだまだ。見える学力と見えない学力がある。「何でそうなるの」のか考える力を身につけてほしい。

わり算は「何で解けるのか」と聞くと戸惑っていた。7を2で割ってと唱えるだけ。方法を唱えるだけ。はいそうですねといっても、算数の授業は流れるが。「なんで?」「どういうこと?と聞く」と答えられないのでここで議論してほしい。「だってさ、」と黒板に書こうとするときにチャンスで、必要に迫られて課題につなげることができる。数学的な見方や考え方もはたらく。

・道具的理解(「〇わる〇はいくつ」のような問題ができるのではなく、関係的理解(「なんでそうなのか」といった問題の仕組みが分かる説明なども身につけてほしい。

・「〇わる〇はいくつか」を全部覚えるのは大変なんだけど、全部理解しなくても意味を知っていれば理解することができる。

・永田先生へ、社会科を中学校でどう教えるか教えてください。「話して、テストに偏っていた。知識技能に偏っていた。」というように自分の知っていることだと、得意げにすらすら話せる。ということも主体性に繋がるのではないかと。

・数直線について、単元を通してやってきた。次の学年や単元に入ったときに永田先生のクラスは数直線については自信を持って話すことができると良い。

・4年生の時は正数なので去年どんなことやったか教材研究をし、子どもから引きだせると良い。

・算数は日常の生活場面から、問題を捉えて算数の問題へとつながる。どんな場面が主体的に捉えられる場面だったのか。生まれたときの体重知りたい場面あるか。発育曲線の中に入っていればすくすく育っているなどと思う。うちの子も成長期になっているな。うちの子生まれたときいくつだっけ、少しだけ思い出せた。〇倍になっていた、、、と知らなければいけない場面になるかな。

・本時の問題場面は捉えられたのか。何を基にするのか、子どもたちは分かっているのではないかと?

・教科書に挿絵がある。挿絵のようなものを想像できていたのか?

・問題文を読み上げるからイメージを書いてごらん。

・数と〇と→などで表す。「話し合っごらん」と分からない子も話に入って分かるようになっていく。一回確認をして、どんな話か分かる。みなさんなら、数直線ではないもので、分かりやすく書くものはありますか?例えば、比例表など。これがいいのか、数直線がいいのか→どっちがいいのか議論することで数直線の良さに気づくことができる。考えを狭めることで自由な発想を奪ってしまう可能性がある。

・自分の考えと自力解決10分は長い?相談しても良い?相談しに行った方がよい?

・相談しに行くことがよい。相談した後でまた自分で3分経ったら続きを書けばよい。もう一度続きをやってみよう。このサイクルを回したい。

・自力解決とは、自分で解決できていなくても良い。自分がどこまでできたか分かればよい。

・しっかりノートを見せながら説明ができていて良い。

・間違ったらアドバイスをすればよい。なかなか間違いを治すことが出ない。何が良いか分からない。中学校の英語では中間指導をしている。途中でいい考えを示してあげる。数直線の図を途中で確認する時間を取ることも良い。

・間違ったことを指摘しやすいようにノートを交換してみる。このノートには足りないところがある。完成していないところがある。言いやすくなる。〇〇さんのノートについて読み解いて説明する。

・練り上げ

アウトプットする時間が良い。やったらやりっぱなしではなく、もう一度やってみよう。

・数直線の図を書いている子がいた。他者と協働することでよいこと。最初の考えと変わったかが分からないので、新しいプリント等用意する。

・評価は自力解決の時にできなかった子がいるので、適応問題のときに取る方が良い。適応問題でできるようにすると変容したんだと分かる。この時間でできるようになったんだという時間なので、適応問題の時間が大事。その時に数直線を書こうねと一言いうと本日の学んだことが分かる。

西牧指導主事より

中間発表

・多様性の捉え方が園とは違う。園は、外国籍や発達段階の違い、発達の課題の実態を踏まえての多様性というとらえ方をしていた。

・小学校は考え方の違いに焦点を当てた。

・話し合いをできる環境と基礎学力

・分からないことを分からないと言えることを大事。友達に分かっていることを教えられる。

・くぼにわくんは数直線を書いた段階では、間違っていた。教えてほしい、真似るだけではなく、変容・した。とっっても変容を良くみることでできていた。日ごろの積み重ねだなと感じた。

中学校にどうつながっていくのか、数直線は登場するのか。中学校の教科書に登場しない。どうつながっていくのか。中学校と共有できると良い。

・子供は倍に大きいイメージがある。2年生で1倍は1つ分のことだと習う。1とみるが分からない、2年生3年生の教科書へ立ち戻らせることも大事かもしれない。連携の視点を踏まえながら発展させてほしい。教科によって違いがあるが、確実に学びに向かっているんだなということが見られました。授業を見合うところから深めていってほしい。

# 舟戸小学校 生活科学学習指導案

授業学級	第 1 学年 2 組
単元名	あきとなかよし
授業者	鈴木 耀太



## 第1学年2組 生活科学習指導案

日 時 令和7年10月21日(火)  
 場 所 1年2組教室  
 在籍児童数 31名  
 指 導 者 鈴木 耀太

### 1 単元名「あきとなかよし」

### 2 単元について

#### (1) 児童の実態

学習に関するアンケート結果は以下の通りである。

	よく当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらともいえない	どちらかといえば当てはまらない	全く当てはまらない
①生活科の授業は好きですか。	85%	15%	0%	0%	0%
②話合いは好きですか。	90%	10%	0%	0%	0%
③話合い活動のとき、自分の考えをもって参加していますか。	85%	0%	5%	5%	5%
④自分の考えを伝えることは好きですか。	70%	15%	10%	0%	5%
⑤友達の意見を聞くと、自分の考えと同じところや違うところを見つけていますか。	80%	0%	5%	5%	10%
⑥友達のよいアイデアを真似していますか。	70%	15%	5%	5%	5%
⑦友達は、自分の考えを理解しようとしてくれますか。	70%	10%	15%	0%	5%
⑧新しい問題に出会ったとき、「なぜそうなるのだろう」と考えていますか。	75%	15%	5%	5%	0%
⑨次の活動は何をするかなど、見通しをもって学習していますか。	60%	25%	10%	5%	0%
⑩学習のはじめに、「前習ったことがつかえるか」等見通しを持っていますか。	65%	20%	5%	0%	10%

⑪学習しているとき、今まで習ったことを活かしていますか。	50%	10%	35%	5%	0%
⑫問題を解くとき、いろいろな方法で解こうとしていますか。	80%	5%	15%	0%	0%
⑬問題を最後まで解こうとしていますか。	75%	20%	5%	0%	0%
⑭授業の振り返りを次の学習に活かしていますか。	75%	10%	10%	5%	0%

アンケート結果より、①の結果から、本学年の児童は生活科の授業が好きだとわかった。また、「なかよしいっぱい がっこうたんけん」の学校探検や学区探検を通して、体験的活動の楽しさに気づき、身近な関わりに興味をもつことができている。また、「なつとなかよし」の学習では学校の周りや土手を散歩し、生き物や植物を友達と一緒に探したり、見つけたものを見せ合ったりする様子が見られた。

⑤、⑨、⑩、⑪の結果から、見通しをもって学習することや本時の活動を次時の活動で活かすことができている児童が少ないことがわかった。また、本時の課題を理解して取り組む児童は増えているが、友達の意見や系統性を活かして学習することには課題がある。1学期に行った、「さいてほしいなわたしのはな」では、あさがおを栽培する活動を楽しそうに行っていた。しかし、前回の様子と比較できずに、簡単な絵と一、二文で終わりにしてしまう児童もいた。

## (2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は、学習指導要領の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに、それらを取り入れ、自分の生活を楽しくしようとする。」(6)「身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫して作ることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を受けて設定したものである。

本単元では、秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、四季の変化を感じるとともに、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びをつくり出したりすることをねらいとしている。児童が、季節の変化や自然の不思議さに気付く活動を進めながら、秋の自然物や身近な物を利用して、秋のおもちゃをつくる活動を行う。さらに、つくったおもちゃで遊んだことを振り返り、遊びがみんなでより楽しくなる方法を考えていく。

(3) 児童の意識の流れ

小単元 (時数)	児童の意識	ねらいに迫る手立て
① あきとともにだちあきをみつけよう (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はっぱの色が変わったね。</li> <li>・公園にどんぐりが落ちていたよ。</li> <li>・どんぐりで遊ぼうよ。</li> </ul>	春や夏に撮った写真や観察カードを見て振り返られるようにする。(振り返りカード)
② おちばやきのみでつくろう (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんぐりでこまをつくりたい。</li> <li>・この落ち葉は帽子の形みたいだな。</li> </ul>	秋の自然部屋に秋の自然物を並べておき、いつでも色や形などを比べられるようにする。(発言)
③ つくったおもちゃであそぼう (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくったおもちゃで遊びたい。</li> <li>・友達と遊びたいな。</li> <li>・友達のおもちゃを真似してみたいな。</li> </ul>	同じおもちゃを作った児童同士で遊び、おもちゃを比較して、改良したり、遊び方を工夫したりできるようにする。(グループ活動)
④ あきとともにだちになれたかな (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも楽しいおもちゃをつくりたいな。</li> <li>・もっとみんなで遊びたいな。</li> </ul>	これまでの記録や写真を用意し、これまでの活動についてまとめる手がかりとなるようにする。(振り返りカード)
⑤ いっしょにたのしもう (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の子どもを楽しませたいな。</li> <li>・いっしょに遊びたいな。</li> </ul>	幼稚園の園児と一緒に、秋の遊びで楽しむという目的意識をもてるようにする。

3 研究主題とのかかわり

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進」

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

〈主体性の手立て①〉 振り返りカードの活用

- ・見通しをもって活動できるようにグループごとにめあてを決める。
- ・学習の終わりに振り返りの時間をとり、次時のめあてをきめることで学習の意欲付けを図る。

〈主体性の手立て②〉 言葉の掲示

- ・話合いが活発になるような言葉や活動を充実させるための視点(わくわくポイント)を児童と作りながら掲示し、活用していく。

〈多様性の手立て③〉 少人数での話合い

- ・同じまたは違う意見に気付く場面を、異質、同質グループで話合うことで意図的に作る。

#### 4 単元の目標

秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫して作ったり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりすることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びの面白さ、自然の不思議さに気付くとともに、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりすることができるようにする。

#### 5 単元の評価規準と小单元における具体的評価規準 (10月～11月 17時間)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫して作ったり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりしている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりしようとしている。
学習活動(小单元)における評価規準	1 ① 校庭や公園の秋の自然の様子や特徴、夏から秋への移り変わりに気付いている。	① 楽しみたい遊びを思い描きながら、校庭や公園の秋の自然の中から遊びに使うものを選んでいる。 ② 諸感覚を生かして、校庭や公園の秋の自然に関わっている。	① 秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、校庭や公園の秋の自然と繰り返し触れ合おうとしている。
	2 ② 秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したこと面白さに気付いている。	③ 秋の自然を使った遊びを自分なりに工夫している。	② 秋の自然物を使って遊ぶ活動を通して、季節の自然物を用いて遊ぶことの楽しさに気づき、秋ならではの遊びに注目しようとしている。
	3 ③ 遊びには約束やルールや大切なことやそれを守って遊ぶこと楽しいことに気付いている。 ④ みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。	④ 遊びの約束やルールなどを工夫しながら、遊んでいる。 ⑤ 比べたり、例えたり、試したり、見通したりしながら遊びを楽しんでいる。	③ みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。

4			④ 秋らしい自然の様子や秋ならではの遊びの楽しさを実感することで、これからも積極的に自然と触れ合っ て遊んだり、身近な自然を取り入れ、自分の生活を楽しくしたりしよう としている。
5	⑤ 幼児と交流することについて、その楽しさや、幼児の立場に立っ て考えることの大切さに気付いている。	⑥ 幼児との交流会に向けて、どのような遊びをすれば楽しんでもら えるかを予想しながら、準備をしたり、交流会で一緒に遊んだりして いる。	

6 指導と評価の計画（主に小単元3について）

小単元 (時数)	主な学習活動 小単元の目標	小単元の評価 規準との関連	評価規準から想定した具体的な子供の姿(評価方法)
1 あきを みつけよう (5)	秋を見つける活動の中で、自然の様子を五感で捉えたり、夏の様子と比較したりすることができ、秋らしい自然の様子や遊びの面白さ、自然の不思議さに気付くことができるようにする。		
2 おちばや木 のみで つくろう (5)	秋の自然物を他の物に見立てたり、特徴を生かしたりするなどしながら工夫して遊ぶことができ、道具や用具を適切に使うことなどの大切さに気付くことができるようにする。		
3 つく ったおも ちゃであ そぼう(5) 本時2/5	秋の自然物で遊ぶ活動を通して、遊び方や作り方を比べたり見直したりすることができ、秋の自然物で遊ぶ楽しさに気付くことができるようにする。		
	○秋の自然物を利用して作ったおもちゃで遊ぶ。 ○見つけたことや気付いたことを伝え合う。	態 ② 知・技 ② 思・判・表 ③ 思・判・表 ④ 知・技 ③ 知・技 ④	・遊びを楽しみたいという願いをもち、粘り強く遊びを試そうとしている。(行動・発言) ・遊びを工夫する楽しさを言葉で伝えている。(発言・カード) ・秋の自然の特徴を生かして、遊ぶものを改良している。(行動・発言・作品) ・遊び方を友達と比べたり試したりしながら、相手意識をもってルールを考えている。(行動・発言・カード) ・約束やルールを考えたり守ったりして、遊びを試している。(行動・発言) ・道具や用具の準備や片付けをしている。(毎時間の活動中の行動観察で見とる)
4 あきととも だちにな れたかな (1)	秋らしい自然の様子や秋ならではの遊びの楽しさを実感することで、これからも積極的に自然と触れ合って遊んだり、身近な自然を取り入れ、自分の生活を楽しくしたりしようとするようにする。		
5 いっしょ にたのし もう(1)	遊ぶ交流会について、相手のことを予想しながら準備をしたり、いっしょに遊んだりすることができ、交流することの楽しさや相手の立場に立って考えることの楽しさに気付くことができる。		

7 本時の学習指導（12／17時）

(1) 目標

友達と遊びながら、ルールを考えることができる。

(2) 展開

児童の活動・意識	評価（●）と支援（○） 本研究の「主体性・多様性」の視点を重視した指導（★）	時間
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の子ができるルールを考えよう。</li> <li>・コースを増やそう。</li> <li>・音が変わるか中身を変えてみよう。</li> <li>・長さを変えたほうがやりやすいかな。</li> </ul>	<p>○「みんながわくわくする」とはどんなことか、また前時よりさらによいものにしていく（練り上げ）の時間であることを確認して、本時の活動に結び付けられるようにする。</p> <p>○本時のめあてに向けて、十分な時間を確保できるようになるべく説明を簡単にする。</p> <p>★前回までに児童から出てきた「わくわくポイント（数を変える、距離を変えるなど）」に触れて活動の見通しをもてるようにする。また、新たに「わくわくポイント」が見つけれられるように意識させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">わくわくルールをかんがえよう。</div>	5
<p>2 わくわくルールを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・投げるところを近づけてみよう。</li> <li>・混んだときのためにたくさん準備をしておこう。</li> <li>・幼稚園の子がやりやすいのはどういうことだろう。</li> <li>・幼稚園の子は僕たちよりもいっぱいチャレンジできるようにしよう。</li> </ul>	<p>○目的意識をもって活動できるよう必要に応じて声かけをする。</p> <p>○行き詰っている場合は、「わくわくポイント」を意識させ、進んで工夫ができるようにする。</p> <p>○自分が比べたり試したりしている遊びを、友達にわかりやすく紹介している児童を称賛し、広める。</p> <p>○自分の遊びのよさ・楽しさだけでなく、うまくいなくて悩んでいるところをみんなに相談してよいことを伝える。</p> <p>○比べたり試したりしやすいように、似ている材料を近くに置くなど材料や用具置き場の設定を工夫する。</p> <p>○活動をしていく中で、相手意識をもってルールを考えているグループを認め励ます。</p> <p>★他のグループを見にいたり、質問したりしても良いことを伝える。また、悩んでいる場合には、他のグループにアドバイスをもらいに行くように助言する。</p> <p>●遊び方を友達と比べたり試したりしながら、相手意識をもってルールを考えている。【思・判・表】</p>	30
<p>3 次の時間に取り組んでみたいことを振り返りカードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教えられるようにもって練習しておこう。</li> </ul>	<p>○グループで話し合いながら、活動の振り返りをする。</p> <p>○新たに「わくわくポイント」を考えることができたグループを積極的に紹介する。また、「わくわくポイント」は掲示し、児童が次時のめあてを決める際の参考となるようにする。</p> <p>★振り返りカードにめあてを書き、次時の活動の見通しをもてるようにする。</p> <p>○次時のめあてを友達と共有する時間を設けて、次の活動に自信をつ</p>	10

<p>・近くから投げる簡単なルールができたからニコニコどんぐりかな。</p>	<p>けたり、意欲付けをしたりできるようにする。</p>	
----------------------------------------	------------------------------	--

8 板書計画

まなび めいじん  
みつける くらべる  
みなおす たとえる

あきとなかよし

すこしむずかしい。  
みんながたのしめるように。

④ わくわくルールをかんがえよう。

わくわくポイント  
かす<sup>ず</sup> ながさ

**2じまで**

⑤

- ・あたらしいルール
- ・ざいりょう (おおきい)
- ・おもしろくなった。
- ・〇〇したけどどうまくいかなかった。

つぎの⑥

- ・ひものながさをみじかくする。
- ・かんばんをつくる。

9 環境構成

黒板

どんぐり

葉っぱ まつぼっくり

・トイレットペーパーやラップの芯  
・ゼリーやプリンのカップ など

けん玉	くじ	くじ	こま
	コースター	くじ	楽器

★同じ材料や似ている遊びのコーナーを近くにして見比べながら考えることができるようにする。

## 第3回 授業研究会「生活科（1学年）」

### 1 授業者より

#### 先行授業より

- ・生活でも振り返り（次何する？）をしてみた。
- ・話し合いが活発になるための手立ては何がある？
- ・異質グループまでいかなかった。今後できるかも知れない。まずは自分が楽しむことを目標にした。

#### 授業者より

秋まつりを子供たちがとても楽しみにしていた。  
どんぐりを拾うところから始めた、自分たちで作りに上げてきた授業。  
「先にルールを決めよう」を先にした。今日は全く触らなくなってしまった。

### 2 質疑

- ・めあての立て方について。  
振り返りをした上で、次の活動を考えるべきではないか。  
子供が自分達は何を今日学んだのかをしっかりと抑えるべきではないか？  
→振り返りは文字ではなく、○をつける振り返りしかしてきていない。  
めあてはみんなで作っていこうねという思いで子供たちには話している。  
◎や△から次のめあてを決めていきたい。
- ・行動もめあてを決めていたのか、意識のめあてを決めさせたいのか。  
→行動のめあてをグループできめさせたかった。
- ・子供たちがどの程度秋祭りのイメージがあったのか。（ゴールのイメージ、見通し）  
→作ったおもちゃで遊ぶ活動はしっかりとったが、言葉での説明だけだったので、子供たちにゴールのイメージを持たせたい。
- ・「ゴーゴー、スラスラ」はどういう観点で分けていたのか。  
→主体的と多様性を意識した分け方をした  
どンドン → 一人で比べる、試す  
スラスラ → グループ同士の話し合いで、言葉で広げていこう  
ゴーゴー → 異質グループでの批評・批判
- ・評価の観点の横にあるものが時数？規準？  
→指導案の単元の評価計画と指導の評価計画はリンクされている。
- ・先生の助言を聞き、助言通りにする児童はB評価なのか。  
→5時間を通して見取っていくものなので、本時だけで見とることはできない。

### 3 グループ協議

- ・「やりながら」比べる  
短い→簡単だから幼稚園 長い→難しいから6年  
一度中断させて視点を確認して価値づけていきたい
- ・異質グループに実際に試してもらい、批評してもらおう。
- ・1年生で
- ・気づきを大切にしていきたい。
- ・発問、教師の関わり方を勉強していきたい。
- ・流れやグループ編成なども研究していきたい。
- ・話し合いの時間を一度区切っていきたい。担任がいなくても回せたのではないのか。

- ・“ルール”について共通認識をもちたい（楽しむためのルール、遊び方のルール）

#### 4 指導講評

譜久村 航（わたる）指導主事より

- ・学年としてのレジリエンス力（立ち直り力）がよかった。
- 発表クラスが学級閉鎖しても、他のクラスで問題なくできる。
- ・教師と児童の関わり方（児童一人一人を尊重している）

##### ○生活科の学びのイメージ

- ・幼児期の遊びからつながることを大切にしている。
- 試行錯誤を繰り返し、気づきから学んでいく

ルールを楽しんでもらえるためのものにしたいと児童が思っていたかどうか（目的意識・必要感）を持たせる。

##### ○具体的な活動や体験を通して大切にする。

##### ○主体性の手立て

「児童の意識の流れ」

導入部分は、前時からのつながりを大切にする。

まずは、おもちゃで遊びたい！→満足（おもちゃの楽しみ、秋の楽しみ）

→じゃあこれをもっと広めたい！

もっと自分達が楽しむためにはどうしたらよいかを考える。→広める

今日までに体験し身に着けておいてほしかったもの

「秋」を見つける→「秋」を楽しむ（気候、色、形、感触、音、量、個性差）

→「秋を楽しめる」おもちゃ（ゲーム、装飾品、色遊び）

おもちゃだけでなく、いろんな楽しみ方をしていてよい（多様性）

「ゴールと道筋」

今日何をするか児童が見通しをもっているか。

主体性にはゴールと道筋が必要。

本時の活動の中で、グループで話し合う必要があったか、児童が理解していたか。

「環境」

実現できる環境が今日あったか。人数は適切であったか。

材料がたくさん用意されていた。⇒子供が試行錯誤できるための環境づくり。

オープンスペースを活用した試行錯誤の場

##### ○「多様性」舟戸小でいう多様性…多面的・多角的な見方・考え方を持つ

多面的…各教科の見方・考え方

多角的…違う立場の視点で考えること

協働のよさを実感できるようにする

「主体性・目的共有・環境の設定」⇒協働的に学ぶ授業の実現

→みんなが同じものを見て話し合いができていたか。遊んで、

「空間、人数、ツール」を意識すれば⇒環境がよくなる

協働の視点

- ・力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ
- ・異なる視点から考え、協働的に学ぶ
- ・多様な情報を活用して協働的に学ぶ

##### ○「幼保小の架け橋プログラム」

幼稚園児はどんな活動をしてきているかを知っているか。

「幼稚園でも気づきから学んでいる。それを自覚的に学ぶのは小学校」という意識を大切に。